

か、橘姫なりといへるは、例の附會のせつなるべし。

〔類聚名物考 地理二十一〕萬木森ヨルギノモリ又云よろぎのもり 近江國高島郡

よろぎ、ゆるぎ訓かよへり、小余コヨ緩磯ノボキをもこゆるぎのいそとも云ふが如し、動搖の意より出たる名なるべし。

〔枕草子三〕鳥は

さぎはいとみるめもみぐるし、まなこゝるなどもうたてよろづになつかしからねど、ゆるぎのもりにひとりねじと、あらずらんこそおかしけれ、

〔新千載和歌集十八〕かくし題の歌よみ侍ける時紫のけさを、 入道二品親王覺性

いかなればゆるぎの、杜のむら鷺のけさしもことに立さはぐらん

〔萬葉集十二 古今相聞往來歌〕寄物陳思

不オモ想ホシ乎ト、想オモ常ト云ト者ハ、眞マコト鳥トリ住ス、卯ウ名ナ手テ乃ナリ、杜ノ之ノ神カミ思シ將シ御ミ心ココロ、